

—スタッフ紹介—

役 職	スタッフ名
健康管理センター長	南谷 かおり
非常勤医員	馬場谷 美知子
応援医師	姚 香景
応援医師	三島 伸介
看護師	谷口 美晴

—概要—

健康管理センターは、人間ドック、脳ドック、乳がん検診、その他各種健診業務、保健指導、女性外来、国際渡航ワクチン外来等を行っている。

常勤医員1名(南谷医師)、非常勤医員1名(馬場谷医師)に加え、応援医師2名(姚医師、三島医師)、看護師1名(谷口看護師)にて業務を行っている。

人間ドックは完全予約制で月・水・金曜日、脳ドックはそれに加えて土曜日に頭部MRI・MRA検査を行っている。特定健診、後期高齢者医療健診は火、木曜日の午前中、企業健診は平日の午前中、泉佐野市民検診である骨密度測定検査は平日の午後、市民乳がん検診は日曜日に年8回(1回あたり28名)、乳がん検診セットは平日の午後に行っており、それぞれ予約制となっている。一般健診は平日の午前中に行っており、予約は不要である。

特定健診受診後、保健指導対象者となった受診者には、当日中に保健指導を行い、生活習慣の改善によるメタボリックシンドローム発症予防をめざしている。

その他、被爆者2世健診、海上保安庁、消防署、関空の検疫所等の公務員の健診、就学時・就職時健診、企業の職員およびそのご家族の健診等を行っている。

外国人専用健診は訪日外国人旅行者を対象とした健診で、現在のところ対応可能言語は中国語のみとなっているが、診察・検査には通訳が付き添い、検査結果報告書も日本語・中国語の両方で作成している。

2016年6月より「国際渡航ワクチン外来」が開設され、海外渡航前のワクチン接種や、それぞれの目的地や活動内容など個々人に応じたきめ細やかな健康相談を渡航医学の専門家が毎週火曜日に行っている。渡航医学とは、海外渡航に関連した医療全般を対象とし、ワクチンのみならず、渡航先の気候・地理条件、文化・風習などについての幅広い健康情報を提供する学際的医学分野の一つである。本外来では海外渡航を①渡航前、②渡航中、③帰国後の3段階に分けて捉え、それぞれの段階に適した医療サービスの提供を行う。「海外に渡航する人々の健康被害を最小限

にくい止めること」が、本外来の基本理念である。また、2017年4月からは厚生労働省の嘱託により黄熱ワクチンの接種も開始され、月に2回の接種日を設けている。

—実績—

2017年度の健康管理センター利用件数は、延べ2,376件である。

内訳として、人間ドックコース及び脳ドックコースの受診件数は合わせて858件で、さらに人間ドックコース受診者でオプション検査として脳ドックを追加した件数は196件である。企業健診は112件、一般健診は166件、被爆者健診は40件、特定健診・後期高齢者医療健診は81件、特定健診保健指導は49件、市民乳がん検診は159件、骨密度測定は81件である。

国際渡航ワクチン外来の受診件数は513件で、北海道から九州まで幅広い地域からの相談を受けた。海外からの一時帰国者からの相談事例もあった。日本におけるトラベルクリニック(渡航外来)での一般的な傾向としては東アジア、東南アジアを目的地とする受診者が多いが、当院ではアフリカ、中南米がアジア圏よりも多いことが特徴である。

接種ワクチンの内訳を見ると、最も多いのがA型肝炎ワクチンで、B型肝炎、狂犬病、破傷風、腸チフス^{注)}と続く(図表参照)。

マラリア流行地域への渡航者においてはマラリア予防内服薬を処方しており、アトバコン/プログアニル合剤は611錠(合計611日分)、メフロキン錠は92錠(同92週間分)が処方された。

黄熱ワクチン接種件数は290件であった。黄熱ワクチン接種は1日に15名までの限られた受入人数で行っているが、充足率は87.9%(受入枠330名に対して290名の接種者)であった。

2017年度 健康管理センター利用件数

	件数
人間ドック・脳ドック	858
オプション脳ドック	196
企業健診	112
一般健診	166
被爆者健診	40
特定健診・後期高齢者健診	81
特定健診保健指導	49
市民乳がん検診	159
乳がん検診セット	26
骨密度測定	81
抗体検査	20
一般予防接種	12
女性外来	4

	件数
アミノインデックス	37
外国人専用健診	5
国際渡航ワクチン外来	513
合計	2,376

のがん検診受診の啓蒙と広報活動を行う必要があると考える。

―来年度への抱負―

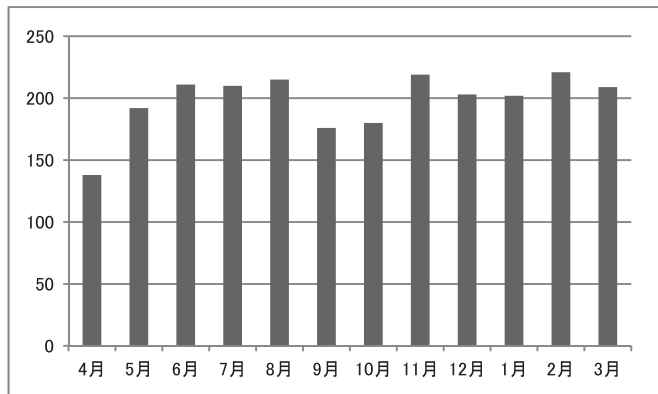
特定健診については、これまでは泉佐野市国民健康保険と被用者保険加入者について実施してきたが、来年度からは熊取町、田尻町の国民健康保険加入者についても実施を受け入れる予定となっており、受診者数の増加を目指している。

2018年度から新たに副健康管理センター長として増田大作医師(常勤)が採用となり、一般健康診断・企業健診・特定健診についてはさらに週2日以上に対応が可能となり受診者の増加につなげられるものと期待される。特に、企業健診に関しては泉南地域の多くの企業とくに協会けんぽを中心に勧誘を行い、更なる受診者増加に努める。また特定健診の受診率向上のため泉佐野市保健所と連絡を密にして地域に貢献したいと考えている。また、睡眠時無呼吸症候群のスクリーニングを行うことにより外来受診につなげ運転者の事故リスクの軽減に寄与したいと考えている。さらに、関西空港を眼前に見る当院の特徴として新たに航空業務者の検診についても参画を検討している。なお、検診スペースの増加について病院管理者および事務と調整しつつ快適な検診業務の遂行を進めていきたいと考えている。

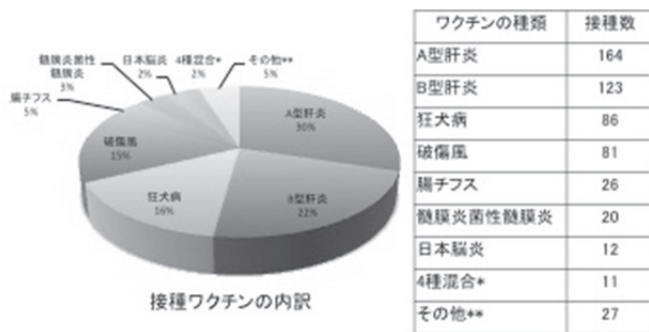
国際渡航ワクチン外来については、本外来の基本理念を実践するため、ワクチン接種のみに偏重することなく、幅広い健康情報の提供を行っている。そのため、一人の受診者への対応時間が1時間を超えることもあるが、医療サービスの質を維持・向上させるためにも必要な時間であると考えている。関西圏のみならず幅広い地域からの相談者を受け入れることができおり、これからも同様の充実した医療サービスの提供を維持・推進していきたい。そして、今後は海外へ留学生を派遣する教育機関や、駐在員を派遣する企業との連携を図り、海外へ渡航する人々の健康維持の強化を目指す。

当院は関西国際空港の対岸に位置しており、海外へ渡航する方々の首途から帰郷までを見届けることのできる医療機関である。したがって、当院における本外来の役割も重要であると思われ、国境を越える人々の健康保全に努めたい。

注)腸チフスワクチンは国内未承認ワクチンである。



2017年度 月別健康管理センター利用件数



*ジフテリア、百日咳、破傷風、ポリオ
**ジフテリア・破傷風2種混合、ポリオ、麻疹、風疹、おたふくかぜ、水痘、インフルエンザ

2017年度 国際渡航ワクチン外来におけるワクチン接種件数

―今年度の成果と反省点―

今年度初めに、健康管理センターが2階から3階へと移設し、設備をリニューアルした。待合室、更衣室が広くなり、診察室が2部屋となるなど受診環境が改善され、患者から好評を頂いている。それに伴い、健康管理センターにて国際渡航ワクチン外来の診療が開始された。

人間ドック・脳ドックは、昨年度の847件から858件に増加し、オプション検査としての脳ドックも昨年度の167件から196件に増加している。一般健診、被爆者健診、特定健診保健指導、乳がん検診セット、骨密度測定、抗体検査、一般予防接種、女性外来、アミノインデックスも昨年度より件数が増加している。企業健診、特定健診・後期高齢者健診、市民乳がん検診は、やや件数が減少しているが、国際渡航ワクチン外来を除いた合計利用件数としては昨年度の1,715件から1,863件に増加している。

外国人専用健診については、ホームページなどでの広報活動やパンフレット作成・配布も開始し、問い合わせが増加している。

市民乳がん検診は昨年度より減少しているため、市民へ